

第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人滋賀医科大学

1 全体評価

滋賀医科大学は、「患者の立場に立った人に優しい全人的医療教育」、「地域医療への理解」、「独自の倫理教育」、「臨床能力の高い人材の育成」等を実践する各種プログラムを活用した医学・看護学教育を推進することにより、高度専門医療人の育成と創造性に富んだ研究者を輩出することを使命としている。第2期中期目標期間においては、次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出や地域医療連携体制の整備等を目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」である。業務実績のうち、主な特記事項については以下のとおりである。

（教育研究等の質の向上）

地域で訪問診療を受療中の患者及びその家族を訪問し、患者側の視点、一般市民が医師に求めているものを学ぶ全人的医療体験学習を実施している。また、サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療法開発への応用や総合がん医療推進研究等の5つの研究を特色ある研究プロジェクトとして学長裁量経費により支援するなど、重点的に推進している。

（業務運営・財務内容等）

事務職員の積極的な活動・キャリア形成を図るため、新たな業務やサービスにも柔軟に対応できる人材のキャリア形成の道筋を提示しており、その専門的知識の向上と活用を図るための戦略的な配置を可能としている。また、世界初となる医療廃棄物を燃やさずに処理ができる「非燃焼型医療廃棄物処理機」を地元企業と共同で開発し、本格稼働させている。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分	重大な改善事項
(I) 教育に関する目標			○		
①学生を受入			○		
②教育方針、内容、方法、成果			○		
③学生支援と生活支援			○		
④教育活動に関する評価・改善システム			○		
(II) 研究に関する目標			○		
①目指すべき研究水準等			○		
②研究活動の活性化等			○		
(III) 社会連携・社会貢献、国際化等に関する目標			○		
①社会との連携や社会貢献			○		
②国際化			○		

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 学生を受入に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生を受入に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

② 教育方針、内容、方法、成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育方針、内容、方法、成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 地域と連携した教育プログラムの実施

第1期中期目標期間(平成16年度から平成21年度)に実施した一般市民参加型全人的医療教育プログラムの継続的な取組として、地域で訪問診療を受療中の患者及びその家族を訪問し、患者側の視点、一般市民が医師に求めているものを学ぶ全人的医療体験学習を第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)に実施している。同じく第1期中期目標期間からの継続的な取組として、卒業生や地域に暮らす住民等が里親、プチ里親となり、滋賀県で医療に従事することを希望する医学科学生、看護学科学生と入学時から交流を行っており、学生の地域医療に対する関心を持続・向上させるための取組を実施している。

③ 学生支援と生活支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学習支援と生活支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

④ 教育活動に関する評価・改善システムに関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育活動に関する評価・改善システムに関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 目指すべき研究水準等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「目指すべき研究水準等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 特色ある研究プロジェクトの重点的推進

サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療法開発への応用や総合がん医療推進研究等の5つの研究を特色ある研究プロジェクトとして、学長裁量経費により支援しており、第2期中期目標期間において合計90件、7,450万円の助成を行うなど、重点的に推進を図っている。重点研究の研究成果は著名な学術誌に掲載されるとともに、がんに関する研究では、がんワクチン療法の医師主導治験を実施している。5つの研究を重点的に推進したことにより、平成22年度と平成27年度を比較すると、インパクトファクターのある学術誌への論文掲載数は86件から130件へ、国際学会発表件数は11件から46件へそれぞれ増加している。

② 研究活動の活性化等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究活動の活性化等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 大学機関リポジトリの整備・充実

平成23年度から学術研究成果や学術資料を電子的に保存する大学機関リポジトリびわ
庫を更新し、国立情報学研究所のJAIROやミシガン大学（米国）のOAster等のデータ
ベースに学術研究成果等が自動で登録されるよう構築するなどの整備・充実を図ってい
る。この結果、登録件数は平成24年度の1,897件から平成27年度の2,906件へ増加してい
る。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会連携・社会貢献、国際化等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 医療に関する公開講座の開催

公開講座を通じて、一般市民に向け医療に関する様々な知識を提供している。公開講座の開催回数、参加者数について、第1期中期目標期間と第2期中期目標期間の年平均を比較すると、開催回数は19回から32回へ、参加者数は1,614名から1,814名へそれぞれ増加している。

○ 地域医療支援に関する将来構想の策定、推進

平成22年度から実施している地域の医療機関への医師の派遣や、平成24年度のがん治療へのロボット手術装置da Vinciの導入等、地域の医療機関の支援を行っている。これらの取組を踏まえ、平成25年度に地域医療支援に関する将来構想を策定し、診療面での地域貢献を推進している。特に、患者支援センターによる地域医療機関との連携について、紹介率は平成22年度の67.2%から平成27年度の77.8%へ、逆紹介率は平成22年度の43.5%から平成27年度の60.9%へそれぞれ増加している。

② 国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 附属病院に関する目標

スキルズラボ利用環境の整備や、地方自治体等との連携による地域医療分野に係る教育研究の推進、研修医の臨床研修体制の充実を図ることで、質の高い卒後教育を行っている。また、平成23年に設置した臨床研究開発センターが中心となって、滋賀県内の医療機関と連携した滋賀治験ネットワークを組織し、治験の活性化及び臨床研究の底上げに取り組んでいる。診療面では、多職種連携によるチーム医療体制の強化を図り、質の高い集学的治療の提供に取り組んでいるほか、患者支援センターを中心とした医療安全管理及び地域医療連携に係る体制を強化している。

<特記すべき点>

(優れた点)

(教育・研究面)

○ 国立大学病院初の遺伝子多型解析装置を用いた研究の推進

平成23年度に遺伝子多型解析装置を設置し、全国の国立大学病院では初めて、治療効果・副作用の予測補助のため薬剤感受性を調べる「遺伝子多型解析オーダーリングシステム」を導入し、第2期中期目標期間中において約400件の解析を行っている。

○ 地方自治体等と連携した地域医療の教育・研究活動等の推進

平成22年度に滋賀県、東近江市、独立行政法人国立病院機構（NHO）と協定を締結し、寄附講座「総合内科学講座」及び「総合外科学講座」をNHO滋賀病院（現NHO東近江総合医療センター）に設置し、第2教育病院として地域医療の再生に向けた教育・研究活動等を推進しており、特定の診療科の再開、病床数の増床（220床から320床）、患者数の増加（在院患者数：34,626名（平成22年度）から93,063名（平成27年度））等、地域医療再生に大きく貢献するとともに、大学病院では経験できない在宅医療などの地域医療分野に係る教育及び研究に取り組み、効果的な研修医の総合教育を行っている。

(診療面)

○ 医療安全管理体制及び地域医療連携体制の強化に向けた取組

平成23年度より、患者支援センター機能を充実させるため、入院相談支援を拡大して入院前に持参薬チェック等を行い、医療安全管理体制の推進を図るとともに、医療ソーシャルワーカー等を増員して円滑な退院調整の推進及び福祉相談、がん相談機能を強化しているほか、病診連携の強化を図るため、IT化により紹介状に対する返書機能を充実させ、すべての紹介医療機関に診察の報告業務を行うなど、患者支援センターを中心として医療安全管理体制及び地域医療連携体制を強化している。

○ 地域周産期医療体制の充実に向けた取組

「地域周産期医療学講座」を設置し、周産期死亡症例の調査・解析や周産期医療従事者に対する講習会等を実施して滋賀県の周産期医療体制を整備しているほか、滋賀県から「総合周産期母子医療センター」の指定を受け、より高度で専門的な周産期医療を提供するため、新生児集中治療室（NICU）9床、回復治療室（GCU）12床に加えて、母体胎児集中治療室（MFICU）6床を稼働するとともに、生殖医療・発達障害治療等の領域の体制を整備し、周産期医療に係る重症・困難症例を受け入れている。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

<評価結果の概況>

	非常に 優れている	良 好	おおむね 良好	不十分	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①人材育成戦略の策定と実施、②組織戦略の策定と実施、③業務効率化戦略の策定と実施

【評定】中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載11事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 事務職員のキャリアマップの策定

事務職員の積極的な活動・キャリア形成を図るため、新たな業務やサービスにも柔軟に対応できる人材のキャリア形成の道筋を提示しており、その専門的知識の向上と活用を図るための戦略的な配置を可能としている。また、診療情報管理士資格を有する職員や病院の医療情報、病院経営分析など専門性が高い職務に従事する職員をスペシャリストコース適用者とし、一般職員より給与を高く設定することで意欲の向上と責任感の醸成を図っている。

○ 柔軟な給与体系の構築

多様な人材を確保するため、平成27年度にクロスアポイントメント制度を導入し、1機関と協定を締結し1名に適用しているほか、優秀な研究者の確保及び大学の活性化につなげるために教員の年俸制を導入し、平成27年度において目標を上回る33名に適用している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①収益力向上戦略の策定と実施、②コスト効率化戦略の策定と実施

【評定】中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載3事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①目標管理システムの構築、②広報戦略の推進

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載3事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 大学経営に係る独自の指標の設定

英文論文の掲載数や研修医のマッチング率等の中期目標・中期計画と連動した「大学評価指標」を毎年40件程度設定し、各担当理事が主体となって目標達成に努めるとともに、役員会において当該指標に基づき大学の活動状況を確認し、前年度の総括結果を踏まえて次年度計画を策定している。また、ウェブサイトにおいて総括結果を公表し、構成員にも周知している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備や環境保全等の推進、②コンプライアンスやリスクマネジメント改革の推進 ③学内教職員の意識改革や組織活性化

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載7事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 世界初の医療廃棄物処理技術による環境への貢献

世界初となる医療廃棄物を燃やさずに処理ができる「非燃焼型医療廃棄物処理機」を地元企業と共同で開発し、平成22年度から本格稼働させている。環境や安全に配慮して有害なゴミや臭いを出さずに医療廃棄物を処理し、従前と比べて31.3%以上の二酸化炭素排出量を削減している。

○ 情報セキュリティの強化

附属病院内で使用できるUSBメモリについて、登録できる機器を生体認証のみ可能なもの（ソフトウェアのインストールが不要なものに限る）又は特定の管理ソフトウェア対応のパスワード認証型USBメモリに限定するなど、情報セキュリティの向上を図っている。

(改善すべき点)

○ 研究活動における不正行為

研究活動における不正行為について、平成27年度評価において評価委員会が課題として指摘していることから、現在改善に向けた取組は実施されているものの、引き続き再発防止に向けた積極的な取組を行うことが望まれる。